

アラサー世代の人は最初の就職が非正規雇用だった割合が、アラフォー世代の二・五倍。大阪商業大JGS S研究センターの調査でこんな実態が明らかになった。

調査は昨年の一～三月に一九六六～八〇年生まれの男女を対象に実施。回答した二千七百七十七人を①アラサー世代(一九六六～七〇年生まれ)②三十年代後半世代(七一～七五年生まれ)③就職氷河期を経験した三十年代前半までのアラサー

## アラサー世代も

世代(七六～八〇年生まれ)に分けて調べた。

最初の就職が非正規雇用だった割合は、アラフォーが8・3%だが、アラサーは21・3%に跳ね上がる。三十年代後半は中間の13・7%だった。

フリーターを経験したことがあるかとの質問でも、アラフォーは男女とも21・8%だったが、アラサー世代は男性が33・7%、女性は39・9%。調査をした指井純子・同センター長は「最初の就職が

## 非正規率 アラフォーの2.5倍

非正規雇用だと、その後転職を繰り返す傾向がある。若い層の不安定な就業状況が結婚や少子化に影響を与えているのではないかと指摘する。

調査ではこれからの日本のあるべき姿についても質問。51・5%の人が「福祉重視の北欧型」と回答し、「かつての日本のような終身雇用を重視」も34・0%。「競争・効率重視の米国型」は10・8%にとどまり、安定した生活を求める意識がうかがえた。